

映画による地域活性化を探るシンポジウム

(要 旨)

○パネルディスカッション 「将来の活性化を図るために、私たちは何をなすべきか」

・宇生雅明 氏

映画「蝉しぐれ」のプロデューサーを務めたことがきっかけで、2001年12月に初めて庄内に来てから9年になる。当時、原作を読んだあと、鶴岡の湯田川温泉で見た朝もやの風景が、蝉しぐれと全く同じ空気で、とても美しく感動した。地域で書かれた小説の中に地域の個性が出ているんだなと感じて、蝉しぐれの撮影が始まったことを覚えている。この映画製作を契機に庄内に住み庄内映画村(株)を設立することとなった。

・阿部武敏 氏

(株)マルハチは、漬物をはじめとする農産加工品を製造して、主に関東方面、広くは北海道から関西地方まで販売展開している。国内に多くの加工メーカーがある中で、地元、庄内の農産物の加工食品を全国に売り込み続けている。映画による活性化についても同様に、「庄内から全国へ」が共通のキーワードになる。

・國井英夫 氏

荘内銀行は、庄内に本店を置く地方銀行として、地域経済の金融部門を担う一方で、庄内地域の活性化に積極的に取り組んでいる。まちづくり会社の立ち上げや地域づくりの企画などに主体的に携わり、庄内における地域づくりは本業の一つとして事業に取り組んでいる。

・熊谷芳則 氏

酒田市内のホテル5社で協議会を作り、互いの入込み客数を公表して、連携して観光誘客を図っている。映画「おくりびと」では俳優やスタッフに宿泊いただいた。地元にはエキストラやボランティアとして撮影に協力し、その後もロケセットを再現して一般に開放するなど地域づくりに気概を持って取り組む人も多く、観光業界としても共に活性化のために取り組んでいかなければならないと思っている。

・佐藤香奈子 氏

地域の皆さんの健康づくりをサポートするため、NPO法人元気王国を設立し、酒田市の中町にフィットネススタジオを設けてスポーツの普及や運動指導などを行っている。スポーツを通じた地域づくり、交流人口の拡大を考えつつも、地域に住む私たちが元気になることが重要と思って活動を進めている。

・宇生 氏

庄内を日本のハリウッドにしたいと思っている。庄内地域は、海や広大な平野、奥深い山々などが揃い、映画撮影地として素晴らしい環境が整っている。屋内スタジオが無いのが残念。スタジオ撮影のとき、映画スタッフは時間とお金をかけて東京に行く。庄内にスタジオがあればその費用を省くことができる。その環境を整えば、庄内で映画スタッフの育成も可能になる。これからも庄内で映画を何本も撮り続けなければならない。

・阿部 氏

宇生社長は、庄内映画村でしかできない映画を作りたいと言っていた。食品業界も同様に独自の商品開発が重要。マルハチしか作れない漬物づくりを行っている。会社は商品開発力が最大の売りで、10品目/週、年間500品目の商品開発を行っている。その中で、市場に出るのは5品目/年程度、ヒット商品になると3年に1品くらいになる。それでも開発し続けることが大切。映画は影響力が大きいと感じたことがある。庄内町の観光協会で見学専門員を採用したが、その方は関東から「おくりびと」に感動して移住したという。映画にはそれほどの力がある。映画の中で、庄内の食を取り入れていただけないか。テレビの人気番組で商品を紹介された直後、売り上げが大幅に伸びたことがあり、映像には強い力がある。

・國井 氏

事業というものは継続していかなければならない。庄内でも事業をしっかりと経営している方は、会社の足元をキッチンと捉えて現実を認識し、将来ビジョンを掲げて取り組んでいる。映画産業がこの地域に根付いていくために何が必要か。金融、行政、市民も含めて考えて、皆で責任を持って取り組んでいかなければならない。屋内スタジオが必要とすれば誰が経営するか、民間事業として成り立つか、リスクは誰が負うのかを検討して冷静に判断しなければならない。その際、できないのではなく、どうやったら可能か考えることが大切。課題は多いが、地域の皆さんが出資するファンドを形成して事業を行うことも選択肢の一つ。映画産業として成り立つには、地域でしっかりとした他の基盤産業がある中で、それらと組み合わせていくことが必要。映画以外で庄内の価値、大きな要素は何かと考えると、庄内では第一次産業がしっかりしている。農業の六次産業化を進めるなど地域の要素で成り立っている産業を根付かせた上で、庄内の人々がそれぞれの立場で地域の産業を支えていくことが大切である。

・熊谷 氏

観光による地域経済への波及効果は大きいものがあり、公共事業の投資も必要だが、観光面に行政がもっと投資すべきである。庄内は、他県からの来訪者は魅力的な地域と

いう。しかし、庄内を一言で表現できる突出した大きな柱が無い。もっと輪郭をくっきりさせる必要がある。庄内平野のスケールメリットを感じてもらえるための工夫や、メディカルツアー、グリーンツーリズムなど、一人一人のニーズに合わせた観光の振興が必要となっている。庄内は一つであり、管内でいろいろある観光の組織を束ねるなどして投資先の重点化を検討する必要がある。スタジオは統廃合する学校の体育館の活用も考えられる。庄内映画村が鶴岡にあるので、スタジオは酒田に整備してはどうか。官民一体となって、誰が、いつまで、何をするのか明確なロードマップをつくって取り組む必要がある。

・佐藤 氏

NPO法人を運営しており、事業を継続するための資金を自分たちで調達している。庄内がハリウッドになれば住民としてとても楽しい。住民が映画にもっと関わりを持つ、それが地域の魅力を見つめ直すきっかけにもなる。食や自然に加えてもう一つの魅力として、自分の子供達にも地域のすばらしさ、誇りをしっかり伝えることができると思う。「おくりびと」では庄内の風景で米国アカデミー賞を受賞した。映画を通して、改めて庄内はいい地域だと考えさせられた。地域の私たちが楽しみを享受できる仕組みができれば地域活性化につながると思う。例えば、子供たちにロケ地を提案してもらいコンテストをすとか、年配の方がエキストラ出演で映画に関わり生きがいを持つなど、映画が生活の一部として取り入れられる仕組みができればいいなと思う。市民の出資を募る場合は、喜びが得られるなど対価が還元される仕組みを作ることが必要。

・椎井 氏

パネリストの話聞いて、皆さんがプロデューサーだと感じた。スタジオについては、庄内にあるとプロデューサーとしては映画撮影の面で魅力的。国内にある大きな3つのスタジオの中で、使いやすいのは利用をオープンにしているところ。同じような条件にすれば可能性はある。ただし、東京から離れているというリスクをカバーする付加価値が必要。運営については地域の人達で行うことも考えられる。ある村では、図書館を自分たちで管理運営している。自ら掃除し、改造は地元の大工、本の整理はシルバー人材の方がやっている。住人がそれぞれ何らかの関わりを持つ仕組み。まとめる人がいればその可能性はある。

また、庄内では、現代劇の農村風景のロケなど、時代劇だけにこだわらないことも大切ではないか。

・宇生 氏

スタジオでは、最大の課題はコストパフォーマンス。雨音など外からの音の遮断、空調設備、防災設備などのインシヤルコストのほかに、電気設備の容量が大きくランニン

グコストがかかる。庄内では頻繁に撮影が来ないというリスクはあるが、次の撮影がくるまでの間スタジオ内のセットを残して、来訪者に開放することでの活用も考えられる。

・阿部 氏

地域づくりに必要なものとして、最後に行き着くところは人材。そして、活性化のために寝ても覚めても考え続けることが大切。失敗してもめげず、困難を乗り越え、熱い想いを持つリーダーが重要である。

・國井 氏

15年前からふるさと振興室を組織内に設けて、地域づくりに取り組む事業を支援している。人を育てているという意味からも若手を配置し、まちづくり会社にも職員を派遣している。これからも地域づくりの中で映画支援を捉えていきたい。庄内の価値をどう認識していくのか。出羽三山や食などがあり、それらに加えて映画もあり複合的に存在する。自分の生活の中に映画が根付いている、そのような地域づくりを目指したい。時間がかかるかもしれないが、継続して取り組みたい。

・熊谷 氏

これからは国外に発信して台湾など海外から人を呼んでくる必要がある。来訪客に聞くと出羽三山が観光のメインとなっている。羽黒山に立ち寄った人が庄内映画村に訪問する仕掛けなど、庄内のゴールデンルートを創る必要がある。地域の観光地とセットで周遊化を図ることが大事だと思う。

・佐藤 氏

4年前、NPO法人を立ち上げたころは、高齢の方が健康づくりに対してお金を支払うという市民の概念はあまりなかった。行政がお金を出してくれるものと思っていた。ここ2～3年で意識が変わってきた。自分の健康は自分で守り、自分で対価を支払うという意識になってきた。観光でも映画でも取組みを続けていくと、時間がかかるかもしれないが、こうしないと私たちの地域が生き残れないんだ、皆で汗をかかなければというように、意識が変わるときがくると思う。ハード整備は、失敗したら負の遺産として長く残るというリスクを持つ。合意形成をしっかりと取り組むべき。

<会場からの質疑、意見>

- ・ 庄内に住んでまだ半年だが感じることもある。食が美味しいというが、もっと深く考える必要がある。客に提供する味にはもっと努力が必要。東京の築地は全国から食のプロが集まり互いに競争している。違いは食に対する努力。庄内は自己満足している。もっと勉強すべきであり、設えを研究すべきである。観光面では、顧客の

ニーズを自らの足で聞いてくる必要がある。本日のテーマは、今後もずっと続けていくテーマ。夜まで議論を続けて大きな成果が生まれたケースもある。時間で終わらすのはもったいない。

- ・ 東北公益大学の学生で取り組んでいるプロジェクトがいろいろあるが、映画で関わることがあれば教えてほしい。

→ キャンパスを出て映画現場を見てみる。映画は昔の徒弟制度のような世界もあり、良い人生勉強になる。

- ・ 地域の一人として役に立ちたい。本日の限られた時間で、参加者の皆の意見を知ることにはできないが、今後ネットなどで意見交換する場があればいいと思う。
- ・ 酒田市に住んでいるが、映画館がある三川町まで行くことができず、良い映画も観ないで終わってしまう。徒歩でいける映画館を要望したい。

→ 厳しい言い方になるが、酒田にも鶴岡にもかつて映画館はあった。それを潰したのは市民、皆さんです。

- ・ 庄内全体の活性化なので、酒田、鶴岡といわないで、地域全体で盛り上げるべきだ。

<まとめ（宇生コーディネーター）>

庄内に長年住んで、いろんな地域の方から自分の地域で映画を作りたい、という相談を受けた。しかし、「無理です」と答えている。庄内は、藤沢周平という偉大な作家がいて、映画と文学がうまく融合した地域であり、一つの文化が育とうとしている。だが、まだ文化を醸し出そうとしている所まではいかない。地域の人々が映画を観る、ということと、参加する、製作する。そういう文化が育っていかないといけない。黒川能は600年の歴史があるが、はじめにそれを始めた人がいる。それが今では、能を観に全国から人が集まっている。庄内発信の映画製作を私も考えている。